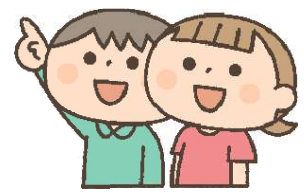




第60回

全国学童保育 研究集会in福岡



全国研広報チームニュースNo. 7
2025. 10. 25発行

いよいよ、本日開催です！

速報値 10月15日現在、確認されている参加者数は

全国から 4300 名超

全体会

参加申し込みに向けて、地域での活発なお声かけにご協力いただきありがとうございました！



- 2025年10月25日(土)13:00～17:00
- 会場：福岡国際センター
- 記念講演
「子どもたちが自ら社会をつくるには
一共に生きる大人が大切にしたいこと」
松田洋介(大東文化大学)

*全体会は、後日、以下の日程でオンデマンド配信があります。
11月8日(土)10:00～11月25日(火)10:00まで
全体会の開会から閉会までのオンデマンド配信を行います。会場参加の方は参加者袋に、オンライン参加の方は討議資料に同封されている案内をごらんください。

分科会



<会場の分科会>

2025年10月26日(日) 9:30～16:00

- 会場：福岡大学・福岡大学附属若葉高等学校
分科会の会場割り振りは、以下のとおりです。
[福岡大学] 第1分科会②④、
第3分科会～第14分科会、
第15分科会～第28分科会、特設分科会
[福岡大学附属若葉高等学校] 第2分科会①～⑨

<オンラインの分科会>

2025年11月9日(日) 10:00～16:00

<全国研特設HP> <Facebook> <Instagram>



第60回

開催地・福岡より
ごあいさつ・お知らせ

「ようこそ福岡へ！」

第60回全国学童保育研究集会・実行委員長／
福岡県学童保育連絡協議会・会長 吉岡美保

第60回全国学童保育研究集会が、いよいよ開幕しました。2年前、全国学童保育連絡協議会の全国運営委員会で「福岡が全国研をやります！」と決意表明をしてから、この日を迎えるまで、あっという間でした。

福岡の実行委員会が掲げた今集会のテーマは「ただいま！ おかえり！～子どもが主役 学童はいく～」。役員・実行委員は、本職の合間をぬいながら夜はオンライン会議、休日は一日をかけての打ちあわせと、準備を重ね、ギリギリまで調整を重ねて、ようやく本番を迎えることができました。

九州の各県連協の皆様が「全国研を九州に！」と心を一つにして協力してくださったことも大きな力となりました。皆様のおかげで、この場に立てることを心より感謝申し上げます。

参加者の皆様と共に学びあい、考えあい、議論しあいながら、子どもたちの明日の笑顔につながる時間を過ごしていきたいと思います。

ここで出会う仲間は、皆「学童保育家族」です。つながりを大切にしながら、2026年の第61回全国研in山形へとつなげていきましょう。そして、ぜひ福岡の街もお楽しみください。

「私と学童保育～ 集え！ 九州・福岡！」

第60回全国学童保育研究集会・副実行委員長／
福岡県学童保育連絡協議会・事務局長 森元茂利

私が学童保育と出会ったのは1990年のこと。娘が福岡県宗像市の小学校内にある学童保育に入所しました。保護者会で毎年取り組んでいた「夏休み親子キャンプ」は、いまでも忘れることのできない大切な思い出です。

同年、神奈川県で開催された第25回全国学童保育研究集会に参加。5000人を超える参加者が集い、その規模に圧倒されるとともに、保護者や指導員の熱い思いを肌で感じ、大きな感動をおぼえました。そして2025年、第60回を迎える全国研が、ここ九州・福岡の地で開催されます。この集会が、学童保育を支える多くの皆さんの学びと交流の場となり、学童保育のさらなる発展へとつながることを心より願っています。

スタッフTシャツについて

運営スタッフは、おそろいのTシャツを着ています。

福岡名物「めんたいこ」(無着色)をイメージした、

「めんたいこ、カラーのくすみピンク」のTシャツがスタッフの目印です!!

会場でわからないことやこまったことがあれば、このTシャツを着たスタッフにお気軽にお声がけください。

めじるしは、
めんたいこカラー



“フотスポット”で思い出を残そう！

会場内に、記念撮影をお楽しみいただける「フотスポット」をご用意しています。
全国研の思い出づくりや、仲間との記念写真にぜひご利用ください。
撮った写真は、個人で楽しむのはもちろん、SNSでシェアするなどしては!!
(ただし、背後に写り込んだ方がいた場合は、肖像権への配慮をお願いします)



おみやげのプレゼントを用意しました♪

資料袋のなかには、福岡メンバーが心を込めてつくったペットボトルキャップのキーホルダーが入っています。
全国研のおみやげは、見返すたびに思い出がよみがえる特別なアイテム♪今回は、全国研60回＆福岡初開催を記念して作成しました。ペットボトルのキャップを集めてはさみでカット、アイロンで溶かして固めた世界に一つだけのキーホルダーです。学童保育や自宅に帰ってからも、キーホルダーと一緒に今回の全国研での出会いや思い出を思い返し、これからの活動の力にしていだけばうれしいです。

分科会会場の情報をお知らせします！

【福岡大学】

- * 周辺のコンビニエンスストアは、『セブンイレブン福岡七隈7丁目店』『ローソン福岡大学病院前(いずれも福岡大学から片道400m)』があります。
- * 書籍販売・弁当配布＆回収は、8号館1Fのラウンジ「オアシス」(食堂)で行います。こちらは、昼食場所として利用することができます。
- * 自動販売機＝構内にあります。
- * 校内は【全面禁煙】です。



←若葉高校 自販機

【若葉高校】

- * 周辺のコンビニエンスストアは、『ファミリーマート荒戸二丁目店』(会場から200mほど)、『ローソン福岡荒戸二丁目店』(会場から400mほど)があります。
- * お弁当の配布＆回収は食堂で。こちらは、昼食場所として利用することができます。また、食堂内の給茶機(お茶・お湯・冷水)も利用可です。
- * 自動販売機＝校内にあります。
- * 若葉高校は、室内履き(上靴やスリッパなど)が必要です。お手数をおかけしますが、持参にご協力ください。
- * 校内は【全面禁煙】です。



缶バッチ絵柄🍒

みんなで山形にきてけろなあ～🍒

第61回全国研は山形で開催！

2026年10月31日(土)11月1日(日)

会場：やまぎん県民ホール・山形テルサ・他



山形県学童保育連絡協議会会長 元木朗博

ほかの誰かとつながっていると感じられるあたたかさ、それを広げることによって得られる充実感。単に学ぶのではなく、学びあうことの大切さ。それらを体感できる研究集会にしたいと思います。

食べ物によって体がつくられるように、聞いた言葉で心はつくり、語った言葉によって未来はつくられる。私たち大人の成長は、すなわち子どもたちの成長につながります。子どもたちがどのような思いで学童保育に帰ってきたとしても、それらを受けとめ、自らの生活の場としてとらえられるよう、「保護者・指導員・運営者・行政」がしっかりと向きあっていかなければなりません。

その意味でも全国研は大きな役割を担っています。ぜひとも皆さんで語りあいましょう！

「母なる川・最上川、のほとり、「山の向こうのもう一つの日本」山形の地で皆様をお待ち申し上げております。

全国学童保育研究集会

開催地・記念講演・講師一覧

回数	開催地	年	参加者数	記念講演タイトル	● 記念講演者
第1回	東京	1964	30	● 金沢嘉市 (教育評論家)	
第2回	東京	1967	106	子どもとその未来	● 小松福三 (和光学園幼児部)
第3回	東京	1968	126	学童保育における生活指導	● 城丸章夫 (千葉大学)
第4回	東京	1969	285	学童保育の未来像——役割とあるべき姿を探る	● 穴戸健夫 (愛知大学)
第5回	愛知	1970	450	70年代における学童保育の役割と制度化の方向	● 浦辺 史 (日本福祉大学)
第6回	東京	1971	700	シンポジウム「子どもにとって学童保育とはなにか」	● シンポジウム
第7回	京都	1972	900	子どもの発達と学童保育	● 田中昌人 (京都大学)
第8回	東京	1973	990	日本の大人と子ども	● 早乙女勝元 (作家)
第9回	大阪	1974	1400	どういふ子どもを育てるか	● 丸木政臣 (和光学園)
第10回	東京	1975	1700	どぶ川学級の実践を通して	● 須長茂夫 (作家)
第11回	奈良	1976	1300	子どもと、遊びのたしかめなおしを	● 北川幸比古 (児童文学者)
第12回	愛知 盛岡会場	1977	1600 600	幼児期から学童期へ——こころとからだの発達	● 近藤薫樹 (日本福祉大学) 6月4日、5日開催
第13回	埼玉	1978	2000	共働きと子育て	● 永畑道子 (作家)
第14回	京都	1979	3000	子どものからだと心の現状	● 正木健雄 (日本体育大学)
第15回	神奈川	1980	4000	成長する親たちだけが子どもたちを成長させることができる	● 藤岡貞彦 (一橋大学)
第16回	三重	1981	3000	子どもの心に人生の節をみる——学童期の思い	● 秋葉英則 (大阪教育大学)
第17回	東京	1982	4642	人間の教育を求めて	● 大田 堯 (都留文科大学)
第18回	大阪	1983	3391	街づくりと学童保育——平和と自治をもとめて	● 宮本憲一 (大阪市立大学)
第19回	岐阜	1984	3100	国民のための教育をめざす私たちの子育て——「健全育成」政策と学童保育の課題	● 高浜介二 (大阪教育大学)
第20回	埼玉	1985	5221	20回記念で3人から	● 山家和子・鷲谷善教・大塚達男
第21回	兵庫	1986	4346	地上にいっぱい鉄腕アトムを	● 木津川 計 (立命館大学)
第22回	愛知	1987	4590	かがやけ子どもたち——発達・地域・平和	● 川合 章 (中京大学)
第23回	千葉	1988	4737	働くこと、育てること、生きること	● 二宮厚美 (大阪外国語大学)
第24回	広島	1989	3749	暮らしの視点——こだわりつつしなやかに	● 寿岳章子 (国語学者)
第25回	神奈川	1990	5340	子どもたちの今日と明日——子どもの権利と大人の責任	● 牧 証名 (教育学者)
第26回	京都	1991	4711	子ども発達と社会の課題	● 山住正己 (東京都立大学)
第27回	東京	1992	5146	子ども発見とかかわり合うことの大切さを	● 津田八洲男 (青森・小学校教諭)
第28回	大阪	1993	5416	ヒトが人になるとは——これからの子育てを考える	● 大田 堯 (日本子どもを守る会会長)
第29回	埼玉	1994	5754	自立をはぐくむ愛のちから——「子どもの権利条約」時代とわたしたち	● 尾木直樹 (民主教育研究所)
第30回	滋賀・京都・大阪	1995	4247	子どもの未来を輝くものに——私たちの子育てと憲法	● 森 英樹 (名古屋大学)
第31回	愛知	1996	4485	いま子育てを考える——「いじめ」不登校が問いかけていること	● 高垣忠一郎 (立命館大学)
第32回	千葉	1997	4320	龍平とともに——母として、人間として	● 川田悦子 (東京HIV訴訟原告団)
第33回	広島	1998	4247	あるがままの子どもたちからの出発	● 村山士郎 (大東文化大学)
第34回	群馬	1999	3801	子どもの心の声を聴く——子育てのための新しい共同へ	● 田中孝彦 (北海道大学)
第35回	兵庫	2000	4898	自分が大好き！と言える子を——子どもたちの希望を育む社会と子育て	● 汐見稔幸 (東京大学)
第36回	静岡	2001	3880	子どもが安心できる人間関係を	● 茂木俊彦 (東京都立大学)
第37回	京都	2002	4381	人を育てる文化 人が創る文化	● 木津川 計 (立命館大学)
第38回	栃木	2003	4005	つながり・ぬくもり・あこがれ——地域・学童保育発の子育て論を	● 増山 均 (早稲田大学)
第39回	大阪	2004	5674	子どもたちの笑顔あふれる社会に——「100人村」と「日本国憲法」から考えたこと	● 池田香代子 (翻訳家)
第40回	神奈川	2005	4989	夕方の子どもの居場所	● 重松 清 (作家)
第41回	愛知	2006	4452	語ること、聴きとられること——子どもと大人がともに生きる道	● 横湯園子 (中央大学・臨床心理士)
第42回	東京	2007	4977	幸せになるための学童保育	● 松崎運之助 (元・夜間中学教師)
第43回	北海道	2008	2793	希望をつむぐ子育ての絆——物語る言葉を生きる力に	● 庄井良信 (北海道教育大学大学院)
第44回	滋賀	2009	4619	子どもの居場所と子育て——子ども・親・指導員のつながり方	● 春日井敏之 (立命館大学)
第45回	千葉	2010	4259	子どもの育ちと親の暮らしを支える学童保育の仕事——子ども理解を深めあう新しい共同へ	● 田中孝彦 (武庫川女子大学大学院)
第46回	石川	2011	3725	自然・人との豊かな関係性がはぐくむ希望	● 金森俊朗 (北陸学院大学)
第47回	埼玉	2012	5798	子どもへの理解を深め、育ち合いの学童保育をめざして	● 広木克行 (大阪千代田短期大学)
第48回	岡山	2013	4262	子ども叱るな来た路じゃ、年寄り笑うな往く路じゃ——学童保育はみんなの“還る家”	● 富田富士也 (教育・心理カウンセラー)
第49回	岩手	2014	4037	「いのち」をケアし、育むということ——学童保育がつむぐ未来への希望	● 庄井良信 (北海道教育大学)
第50回	大阪	2015	5558	人が人のなかで生きていくということ——子どもも大人も生きやすい社会とは	● 中西新太郎 (横浜市立大学名誉教授)
第51回	愛知	2016	4707	子どもの発達と大人の役割	● 田丸敏高 (福山市立大学)
第52回	兵庫	2017	4030	小学生のこころのヒ・ミ・ツ	● 近藤直子 (日本福祉大学名誉教授)
第53回	神奈川	2018	4588	子ども時代は二度と来ない——「子供」が「こども」でいられるための五つの権利	● 増山 均 (早稲田大学名誉教授)
第54回	京都	2019	3708	働きながらの子育て——子どもが自分で育つ力を育む	● 池添 素 (NPO法人福祉広場)
第55回	山形	2020		「新型コロナウイルス感染症」の影響で中止	
第56回	オンライン	2021	4612	学童保育の歴史から学び、未来をひらく——前例のない課題に立ち向かう	● 石原剛志 (静岡大学)
第57回	オンライン	2022	4575	紛争地、被災地に生きる子どもたち——取材から見てきたこと	● 安田菜津紀 (フォトジャーナリスト)
第58回	オンライン 東京・神奈川会場	2023	4045	どの子も受けとめる学童保育をめざして	● 丸山啓史 (京都教育大学)
第59回	岡山 オンライン	2024	4829	子どもも大人も育つ学童保育——思いっきりあそび、人生の土台をつくる	● 川地亜弥子 (神戸大学)
第60回	福岡 オンライン	2025		子どもたちが自ら社会をつくるには——共に生きる大人が大切にしたいこと	● 松田洋介 (大東文化大学)